

# 知恵の樹

No. 196 2015. 11. 24

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 「ツタヤ図書館」対する市民の活動

図書館友の会全国連絡会 代表 福 富 洋 一 郎

最近、マスコミで「ツタヤ図書館」という言葉をよく見かけるようになった。ご承知のように、佐賀県武雄市は2013年4月から、樋渡市長の指示により武雄市図書館に指定管理者制度を導入した。樋渡市長は、指定管理者としてカルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社(以下、CCCという)を特命で指名し、CCCは図書館運営だけでなく、蔦屋書店やスターバックス(コーヒーショップ)、TSUTAYA・DVDショップなどを併設し、話題となった。私も2013年11月に図書館友の会全国連絡会(以下図友連という)の有志とともに、武雄市図書館を訪問して驚愕し危機感を抱いた。社会教育機関としての図書館機能が大幅に後退したばかりでなく、全国から図書館を見学した自治体が高い評価を与え、CCCが全国に営業展開を始めたからである。

次にCCCの図書館運営が決まったのが神奈川県海老名市であった。図友連としては、武雄市長に対して2013年7月に出した声明書と同様に、海老名市長に対しても2014年2月に意見・要望書を送付した。しかし、海老名市もCCCに指定管理者を特命し、2015年10月に海老名市中央図書館をCCCの手でリニューアルオープンすべく準備を進めた。海老名市ではCCCは共同事業者として図書館流通センター株式会社(以下、TRCという)と組んで事業を進めた。

他にCCCは、宮城県の多賀城市、山口県周南市、愛知県小牧市、岡山県高梁市などで図書館

の指定管理者として営業を進めていたが、このようにときに武雄市で、ようやくCCCの図書館運営に大きな問題があるということのマスコミ報道が2015年8月から流れ始めた。これはようやく武雄市図書館の運営状況の情報が開示され、選書などにゴミ本と言っても良いほどの信じられない選書をしていたことが判明したからである。新聞だけでなく、週刊朝日や女性セブン、AERAなどの週刊誌を賑わした。

このときに小牧市では市民がCCCとTRCを指定管理者として小牧駅前再開発を行う市長の構想に対して、反対運動が起こった。武雄市図書館をモデルにして図書館の建設を性急に進めようとする市長に対し、市民は学習会を開き、住民投票を実施する手段を図書館界では初めて採用したのである。2015年8月6日に集めた6,003筆の署名を市に提出。9月10日の市議会で、市議会議員選挙に合わせて、住民投票をすることが決定した。図友連としては、10月4日の住民投票に向けて「小牧市の図書館を考える会」の運動に応援するために、9月28日付けで小牧市長宛てに「武雄市をモデルとした新図書館建設の再考を求める要望書」を提出した。ここには武雄市図書館で顕在化した課題や武雄市とCCCを巡る疑惑について説明しているので、「ツタヤ図書館」問題の全貌が分かりやすく理解できる。この要望書を小牧市長だけでなく、住民投票と同時に行われる市会議員の候補者全員やマスコミにも配布した。

10月4日の開票の結果は、反対が32,352票、賛成が24,981票となり(投票率50.28%)、市長がCCCと連携した図書館建設計画は見直されることになった。小牧市民だけでなく全国の図書館に関心を持つ市民が、住民投票に強い関心を寄せていることを伝えた点と、分かりにくい図書館の指定管理者制度の導入の問題点を伝えた点で図友連からの要望書は役に立ったのではないかと考えている。

その後海老名市でも、選書の不備や分類・配架など、図書館機能の基本的な部分でCCCの「ド素人」(CCCの高橋館長の発言)ぶりが表面化した。

## 「リアル図書館戦争」勃発！ 手嶋孝典

### 1. ツタヤ図書館とは？

ツタヤ図書館をめぐる「リアル図書館戦争」が勃発している。

ツタヤ図書館の元祖は、佐賀県武雄市図書館である。武雄市図書館は、レンタル大手「ツタヤ」を展開するカルチャ・コンビニエンス・クラブ(CCC)が指定管理者として運営している。午前9:00～午後9:00まで年中無休で開館していることや、蔦屋書店の併設により、本の購入、CD・DVDの有料レンタルが可能であること、館内にはスターバックスも併設され、コーヒーを飲みながら本を読むことができることなどで話題をさらった。

図書館そのものの機能ではなく、集客力を持つ施設ということが一部の首長の関心を引き、宮城県多賀城市、神奈川県海老名市などが相次いでCCCとの連携による図書館建設計画を公表した。

日本図書館協会は、武雄市図書館の問題点を指定管理者制度導入の理由、手続き等について、6項目の問題点を構想の段階から指摘していた(「武雄市の新・図書館構想について」<http://www.jla.or.jp/demand/tabid/78/ItemId/1487/Default.aspx>)。

しかしながら、新聞等のマスメディアは、民間企業が図書館の指定管理者になることに好意的

しかし、まだまだ「ツタヤ図書館」の構想は全国に広がっている。これまで話題になりにくかった公立図書館が注目を浴びているので、この機会に図友連としては2009年5月に総会決議(2012年5月総会改訂)をした「私たちの図書館宣言」に述べられた7項目の図書館の理想像実現に向かって、今こそ打って出るチャンスと思っている。

### (参考)

「武雄市をモデルとした新図書館建設の再考を求める要望書」 <http://totomoren.net/blog/?p=577>

「私たちの図書館宣言」

<http://totomoren.net/aboutus.html#engen>

な論調が際立っていた。

ツタヤ図書館が多くの問題を抱えており、それを指摘する議論があるにもかかわらず、民営化＝いいこと、という図式は、一般的なマスメディアの主調音となっており、民意のそれなりの反映ではある。もちろん、民意の形成は、マスメディアの影響も大きく働くから、マスメディアがその責任の一端を担っていることは間違いない。

武雄市図書館については、井上一夫さんたち(武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会)が市長派からの異常なバッシングにも屈することなく、地道な反対運動を続けてきた。図書館友の会全国連絡会(図友連)も、具体的に問題点を指摘しながら、樋渡前武雄市長の責任を追及してきた。貴重な地域資料の廃棄、雑誌やDVDの大量廃棄の問題は、その氷山の一角に過ぎない。指定管理者制度の問題もちろんあるが、それ以前に武雄市(あるいは前武雄市長)とCCCの癒着が根底にあると思われる。そのことが最近になって露呈してきた。それが「リアル図書館戦争」と呼ばれている事態の本質である。

### 2. 「リアル図書館戦争」の全貌

#### ①武雄市図書館と海老名市立図書館の選書

CCCや前武雄市長への疑惑を週刊誌などのマ

スコミが取り上げ始めた。CCC が武雄市図書館のリニューアル開館時に選定、購入した1万冊の図書の中に不適切な古書が混在していたという疑惑である。それらを CCC 関連会社の古書店ネットオフから買っていたと報じられたことが発端になった。

武雄市図書館に次いで、ツタヤ図書館モデルを導入した海老名市立中央図書館(CCCと図書館流通センター=TRC の共同事業体が指定管理者になっている)でも同様の問題が発覚した。10月1日のリニューアルオープンに向け購入予定図書のうち、8343冊の購入リストが明らかになったが、古書が多く、大半を料理本やグルメ本が占めていること、メガネ拭きやフライパンなどの付録がメインの図書とはかけ離れたものもあり、古い雑誌を含んでいることなどが市議会の一般質問で明らかにされた。教育長は謝罪した上で、「選書リストを承認していない。一時凍結して選書をし直す」と答弁した。併せて「選書は私が承認しなければ執行されないことを図書館長を集めて確認した。購入する本はすべて新刊本で、CCC に関わる業者からの購入は絶対に許さないということも確認しました」とも答弁している。

本来、図書館の選書の責任は図書館長にある。ところが海老名市の教育長は、「選書は私が承認しなければ執行されない」と答弁している。教育長が選書のチェックをするなどということはできる訳がないし、やってはいけないことである。案の定、教育長の違法性が疑われるチェックにもかかわらず、不適切な選書があることが明らかになった。このことについては、多くの報道があるので、ここでは省略することにした。

そもそも海老名市立中央図書館は、館長も含め指定管理者による運営であり、そのことの是非はともかく、「図書館経営に詳しい研究者が『行政が指定管理者に資料収集方針を明示し、その通りに蔵書が構成されたか確認すれば、変な本が紛れ込むことはなかったはずだ。丸投げのように任せたのは…問題』と発言しています。これは看過できません」。(中略)「指定管理者が選んだ資料

を教育委員会がチェックすることは指定管理者制度ではなく、『偽装請負』になりかねない行為。『丸投げ』していて、チェックする図書館員は行政内部にはいないはずですから、できる道理はありません」(2015年10月22日、東京新聞)と松岡要さん(日本図書館協会元事務局長)は述べている。

この指摘こそが指定管理者制度の問題点を衝いている。

## ②海老名市立図書館の分類

図友連代表の福富洋一郎さんは、10月1日に海老名市立中央図書館に行き、「本の分類・配架が分かりにくいので当日口頭で、翌日メールで質問しましたが、10月10日メールで高橋中央図書館長から回答が来ました。『企業情報』なので答えられないとのこと。『書店』の分類ではなく『図書館』の分類を利用者に説明できないとなると説明責任を果たしていません。指定管理者制度の致命的な欠陥がここにも表れていると思います」と図友連のメールリストで報告している。

CCC のツタヤ図書館は、公立図書館などが準拠している図書館の分類方法、日本十進分類法(NDC)に準拠しておらず、独自の分類方式を採用している。福富代表の報告は、そのことに対する疑問である。海老名市立中央図書館長の回答は、福富代表の報告によれば、「頂きましたご質問に関しましては、当該職員より報告を受けております。内容を確認させていただきましたが、分類方法およびその分類をした経緯に関しては、深く企業情報に関わるものと判断しております。よって、今回のご質問に関しましては回答を差し控えさせて頂きたく存じます。何卒ご理解の程よろしくお願いいたします」というものであった。

公立図書館の分類方法が「企業情報」だから回答できないなどということが許されるのだろうか。

— 一次号に続く —

### \* 公開中 映画

『図書館戦争 THE LAST MISSION』

\* 田井郁久雄さんが、『世界』(2015年12月号)に「虚像の民営化『ツタヤ図書館』」を書いています。

## 第101回 全国図書館大会東京大会 「図書館は地域の広場 生きる力」 開催

去る10月15日(木)・16日(金)の2日間、日本図書館協会主催の表記の会が国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれました。初日はシンポジウム「図書館とまちづくり—世代をつなぎ、次代を育て、地域をつくる—」が開かれ、2日目には21の分科会が開催されました。

今回、大会実行委員として第22分科会の運営に関わりましたのでその報告をします。

**第22分科会**は図書館友の会全国連絡会の主催で、テーマは、「**市民と図書館：図書館を支える市民の力**」です。

市民が主体の分科会は、第97回多摩大会のときに日本図書館協会より多摩地域で活動をしている市民が主体になって分科会をということで、町田の図書館活動をすすめる会が中心になり多摩市の人たちにも働きかけ、市民の分科会を企画し開催したのが始まりでした。その後2回の地方大会では、市民の分科会は実現しませんでした。今年の第100回記念大会では図書館友の会全国連絡会が共催者となり、分科会を2つ実現しました。

今年はその分科会枠を継続して実現したのです。なおテーマと「図書館を支える市民の力」は、昨今の公立図書館を巡る諸問題の中で、公立図書館を守り育てるのは利用者である市民自身なのであるということがどれだけ理解されているのか、それを再確認し、さらに先駆的事例などを参考に各地の活動につなげていく原動力になればという思いから企画されました。

当日の基調講演には、市民と共に図書館を作り上げた佐賀県伊万里市の伊万里市民図書館元館長犬塚まゆみ氏にお願いし、伊万里市民図書館が市民とどの様に作り上げられたのかその過程と、市民が支えている現状を詳細にお話いただきました。特に、市民が自由に館長へコミュニケーションが取れるようにとガラス張りの館長室を作った話は印象的でした。また事例報告として市民の図書館運動体である「としょかんふれんず千葉市」代表の石倉賢一氏が、「としょかんふれんず千葉

市」と図書館との関わりなどをご紹介いただきました。最後に犬塚、石倉両氏と福富洋一郎氏(図書館友の会全国連絡会代表)をパネラーに迎え、パネルディスカッションを開催。会場の参加者から全国各地での市民と公立図書館の関わりについての事例や問題点など積極的な発言がありました。福富氏からはメディアで報じられるリアル図書館戦争の実態など市民として強く関心を持たねばならぬテーマについても現状報告と図友連の活動を絡めて解説がありました。

今回の分科会運営を通して、公立図書館がなぜ公立なのか？なぜ必要なのか？その本質をしっかりと市民が理解しているのか？という問題だけではなく、利用するだけではなく、その図書館をよりよくする主体が市民自身であることを自覚して、責任の一端も負う覚悟が必要であると感じました。今回は100名の参加者があり、市民、図書館員、地方議会議員、行政関係者、研究者など参加者の幅の広がりも、本テーマへの関心の高さを示しております。

このような分科会がさらに継続され、それが各地で公立図書館を考える市民の活動の拠り所にできればと思います。詳細内容については後日、日本図書館協会より記録集が刊行予定です。ご一読を。

(山口 洋／会員・大会実行委員)

**第22分科会 に参加して  
「市民の力」の無限性を感じました！**

齋藤美智子

第16期町田市図書館協議会委員の委嘱をお受けし、今年8月、第1回目の委員会に出席した私は、頭の中が真っ白になり、心は…階段を踏み外してガクン！にも似た状況でした。

今まで、「図書館」についてあまりにも少ない情報の中で生きてきたのだ、と感じたからです。児童福祉施設の仕事をしながら、小さな「動植物こども図書館」(園舎建替えの為現在はありません)を園の隣に併設し、本を数多く収集すれば子どもは来て

くれる。それに伴うプログラムしか考えていませんでした。能動的な立場でおりました。それが根底から違っていた>と思ったのは、委員会に出席して、「図書館評価」を渡され目を通したときでした。知らないことが多く、身が縮まる思いでした。

人は、何かが心に留まるとそれがきっかけで、視野が広がります。その日から私は、新聞、ニュース、雑誌等を見てもく〜図書館〜>とつくと、敏感に反応するようになりました。たくさんの情報の中で、「図書館と市民の関係」というテーマはとても新鮮でした。図書館から提供されるく〜講座>というものを越えた、ワクワクする何かがありそう。数ヶ月の間そんな気持ちでいたので、今回、「市民と図書館：市民の力」の第22分科会を迷わず選びました。参加して考えたことがあります。

「図書館を市民が支える」事がく可能>という事をどれだけの市民が知っているのだろうか？「私達の図書館宣言」は、どれだけの市民のく手元>にあるのだろうか？ そんなこんなと頭の中をよぎっていたとき、分科会での犬塚まゆみさんの基調講演の「種まきから始まった人づくり」というお話しが心に響きました。

10年間、1粒、2粒、…と種まきをしながら充実していった図書館のお話は、テーマの、市民の力とはどのようなものかに沿ったものでした。

石倉賢一さんは、図書館と市民の関係を「としよかんふれんず千葉」の市民活動を通してお話がされました。その中で今後の課題：効率化・財政難・学校図書館の司書不足・公民館図書室の指定管理危機・議員への働きかけの重要性・図書館との協働等報告されました。

パネルディスカッションのフリートークでは、全国の活動情報が時間ギリギリまで発表されました。墨田区が実施している市民が運営するくライブラリーファシリテーター>は、各一人が一企画案を出し=企画書作成=図書館提出=採択=承認(補助あり)という流れにく市民の力>の無限性も感じられました。

何もわからず飛び込んだ分科会。湧き出るエネルギーがなければ、達成できないく熱気>を感じて帰路につきました。今後も、いろいろな事を学びながら私自身も一歩踏み出して歩まねばと強く思いました。〔 町田市図書館協議会委員  
団体会員(自然の国子ども図書館) 〕

—近況報告— 成瀬の小さな図書室「かえで文庫」の行方？ 伊藤倭子

成瀬コミュニティセンター内で35年余、地域の子どもの読書を支えていた「かえで文庫」は、2016年4月の新センターの落成を待ちわびながら、現在、成瀬中央小の1室をお借りして活動をしています。

2013年7月に行われた「センター建て替え説明会」では、文庫スペース(30㎡)の確保と、その1/3のスペース(10㎡)には、市の予約本の受け渡し機を置くという話がありました。その後、そこには職員を配置し、文庫スペースを含め図書館の所管にしたいとの話があり、地域のボランティアと市とが協働で築く新しい地域センターとしての期待に胸が膨らみました。

ところが、先日(11月10日)、市側より招集がかかり、「予算上、予約本の自動受渡し機は設置出来なくなり、職員も配置しない」「そのスペース(10㎡)は、文庫のとなりの部屋にあるキッズコーナーの広がりとし、予約本の受渡しはセンターの受け付けです」「かえで文庫のスペース(20㎡)は、センター開館時はオープンにして、大人の本も少々置いて誰でも気軽に本が親しめるような文庫に、という趣旨の話が市民協働課および図書館全管理職在席の下にありました。

誰でも立ち寄れる文庫、本のある空間を！と、先ずは望みましたが、そこを管理する人の気持ちを考えないでボランティア任せにしようとしている気運が感じられ、不安になりました。子どもの安全、本の管理は大丈夫なのか？ 長い年月、子どもの読書環境を良くしようと、ボランティアで活動を続けてきた「かえで文庫」ですが、ボランティアにも限界があります。これからどうなるのでしょうか？ 近いうちに文庫に関して市との協定書なるものを交わすとのことですが、複雑な気持ちでいっぱいです。

それにしても、工事は進みしっかりした外郭が出来上がっている今になっての急変はどうしたものかと、文庫の仲間は戸惑い不安に駆られています。皆さん、お力をお貸しください。

# 「第30回・のづた丘の上秋祭り」 成功裡に終わる



野津田・雑木林の会代表 久保礼子

市民が自主的に集って「この自然をいつまでも！」と回を重ね今年も、11月3日、野津田公園の雑木林に囲まれた広い原っぱに自然を愛する 20余の団体・グループが集まって、自然と子どもが主役の『のづた丘の上秋祭り』を開催しました。

オープニングには、30回の節目を記念して、長くこのお祭りに出店しているまちだ語り手の会・代表の増山正子さん、和光小学校・教諭の中井孝之さんに挨拶をしていただきました。

増山さんは宮沢賢治の作品から、中井さんは学校教育の実践から身近にある自然の大切さを伝え、「この祭りが末永く引き継がれますように」とメッセージ。会場から、拍手が沸き起こりました。続いて、祭りの呼びかけ人で主催者の野津田・雑木林の会から代表の久保が挨拶。この機に、と、祭りの当初についてお話をさせていただきました。

祭りの名称が”丘の上“となっているように、当初の会場は 日本聾話学校の前の見晴らし広場であったこと。そこが、市の計画で駐車場になるということで、聾話学校に子どもを通わせるお母さんたちが「子どもに危険だ」と市の計画の変更を求めて祭りを計画したということ。その思いを継いで、会場は変わったけれど名称をそのまま残し「この自然をいつまでも！」と回を重ねてきたこと。そんな祭りの経緯を伝えるのは、今回が初めてだっただろうと思います。大切に保存していた手書きの第1回目のポスターをみなさんに見ていただき、先達の思いを伝えることができたことを何よりうれしく思ったことでした。

お祭りは、今年も、親子連れを中心に地元の方々から横浜市、川崎市、相模原市など近隣の方々まで幅広い層の方々が訪れてくださって大盛況でした。出店ブースは、いずれも遊びやモノ作りを楽しんでもらおうと工夫を凝らして個性的でした。思いを一つにする市民が自主的に集って——、ならではの質でしょう。

「この祭りの魅力は、土と緑が本来持つ力でしよう」と伝えてくださった方もいます。

子どもたちははじけて、満面笑みで、広場を走り回っていました。

「この自然をいつまでも！」と多くの方々と手をつないでオリジナルな形を創ってきたお祭りです。「末永く」と願う気持ちは主催者も変わりありませんが、ここに来て、新たな事態が生まれていることに危惧を持っていることを最後に報告させていただきます。

公園管理が市の直営から指定管理者に移行して、今年になって、指定管理者の新たな自主事業が次々に発表されました。マレットゴルフ、手ぶらでバーベキュー等々。そして、このお祭りも、指定管理者が網掛けをして他のイベントと一緒に『野津田公園フェスティバル』と銘打って開催するという案が、今年6月、突然に指定管理者から示されました。詳細は、11月20日に開催される運営協議会(指定管理者主催)で報告とか。注目しているところです。(団体会員)

**第16期図書館協議会 第3回定例会開催 10月22日(木)**

○館長より、人事異動・第8回教育委員会(10/2)の報告  
 ・文学館の事業報告として、「宮沢賢治 イーハトーヴの鳥たち」展(7/18～9/23)は目標達成率 97.5%(87771人を動員)、様々な企画に定員を超える応募があり好評/「没後25年、日影丈吉と雑誌『宝石』の作家たち」展開催(～12/20)について/「第9回文学館まつり」を地元町内組織と協働で開催(10/25)。和太鼓演奏、鉄道ジオラマ、落語、連句、生け花…有り。  
 ・町田市立図書館員が図書館の自由委員会について静岡県立図書館で研修講師を務めた(9/25)。

○委員長より、第101回全国図書館大会の報告(4P参照)

○協議事項として、以下のことが話し合われました

1. 図書館評価について/2014年度決算数値確定により、評価項目の外部評価追加があった。
2. 中央館・地域館視察の件:今後の審議や次年度以降の外部評価に資することを目的に、新システム導入・忠生新図書館・木曾山崎図書館の耐震化工事後の様子を、12月から1月にかけて2回分け定例会以外の日程で視察予定。

◇第4回定例会は、11月26日(木)15:30～ 傍聴自由

**すべての子どもに読書の喜びを！  
 親地連第20回全国交流集会開催される**

於:10月3日(土)・4日(日)  
 国立オリンピック記念青少年センター

戦後70年目の節目を迎え、「平和あってこそ子どもの本」を前面に押し出しての2年に1度開催の、30年目の大会だった。

交流会での、被爆問題を抱えた被災地福島で子どもの読書環境を支えボランティア活動をしている現場からの報告は、図書館の役割とは何かを考えさせられ、図書館行政とつながることの重要性が話された。那須田淳氏の「アンネ・フランクからの伝言ー君たちは戦争をどう伝えていくのか」の講演や「平和」の分科会も開かれ、全国各地で子どもと本を結び、平和を願って読書環境に力を入れている300名余の参加者たちが、語り合い、学び合い、エネルギーを得た2日間だった。(M<sup>4</sup>)

**「世界こどもの日」記念 フォーラム・子どもたちの未来のために**

**私たちは「立憲主義」と「民主主義」を取り戻すまで活動を続けます**

表記集会が11月20日6時から8時半まで、日本出版クラブ会館にて開かれ、会場は260名の熱気でいっぱいとなった。プログラムは2部構成で、1部は高畑勲・安保法案に反対するママの会代表・SEALDs(自由と民主主義のための学生緊急行動)のメンバーの3名によるスピーチ。2部は児童文学作家6名のリレートーク。

この会は、2013年の特定秘密保護法をきっかけに、児童図書出版に関わる7団体によって結成され、これまでに共同声明をはじめとして数度の集会や学習会が開かれている。特に今回は、「ママの会」とSEALDsの参加が目玉で、こうした若い団体とも連携していくことはとても意義深いと思う。若い2人はともにスピーチは初めてと遠慮がちに言っていたが、あにはからんや、明確な口調によるそれぞれの立場からの決意表明は、とても新鮮で参加者に強く訴えるものであった。

とすれば圧倒的に大きな流れの中で、一人また一人と口を閉ざしていってしまうことが、過去の歴史を無惨なものとしてきた。社会に向けて、また子どもたちに向けてその想いを示すことのできる作家たちが、こうして活動を続けようとしていることはとても心強く、応援したいと思う。(水)

この会の最後にアピールが採択されているが、紙面の都合でそのごく一部をご紹介します。

子どもたちは将来自分たちが暮らすことになる社会を創造する作業に、いま、直接参加することは困難です。それだけに、私たちには次の世代に自由で民主的かつ平和な社会を残していく責務があります。

子どもたちには自由な社会が必要です。知る権利と自由に表現できる権利が保障されていなくてはなりません。

子どもたちには民主的な社会が必要です。お互いの個を尊重しあい、のびのびと自分の考えや意見を表明できる開かれた社会です。

子どもたちには平和な社会が必要です。いわれなき貧困や差別から解放され、豊かな幸福を実現できる社会。それは、断じて「殺し」「殺される」戦争のある社会ではありません。

絵本学会、絵本作家・画家の会、童話著作者の会、日本国際児童図書評議会、  
 日本児童図書出版協会、日本児童文学者協会、日本ペンクラブ子どもの本委員会

★ブログ <http://kodomotachinomirai.blogspot.jp/> ★

**定例会／報告 18:00～20:00 中集会室**

● 9/29(火) (16:30～195号刷)

出席: 石井、岡澤、河合、久保、近藤、齋藤、佐々木、清水、鈴木(真)、手嶋、丸岡、桃澤、山口、渡辺

● 10/27(火) (会報休刊)

出席: 石井、神尾、久保、近藤、佐々木、清水、菅原、鈴木(真)、多田、手嶋、増山、丸岡、守谷、山口、渡辺  
傍聴: 囑託労山下委員長

● **会報について**・・・記事不足のため 10 月は休刊

▶取り上げてほしい情報:海老名市立図書館の選書問題や小牧市の住民投票、CCC について/10/15・16 開催の図書館大会・10/3・4開催の親地連全国交流集会、野津田雑木林の会 30 周年、リアル図書館戦争、ニューパラダイム研究会、等報告/今年度の図書館子どもまつり(3/23～27)の予告 etc

● **活動について**

▶11/15 開催の佐々木央さん(共同通信編集委員)講演会…演題は、一般の人にもわかりやすいタイトルにということで、講師と調整の結果「記者の眼から見た民主主義のいま～『絶歌』、ツタヤ図書館をめぐって～」に決定。役割分担等綿密に打ち合わせをして、町田市立図書館の協力を得てチラシ等を作成・配布。62 名の参加者を得て盛会裏に終了(次号にて報告)。講演後の懇親会は「たがまや」で、市外の人たちも含め 14 名が参加してにぎやかに行われた。

▶静岡の図書館見学&静岡図書館友の会との交流…日程・行程を調整した結果、1/31(日)、午前中に静岡市市立御幸町図書館&中央館を見学、午後静岡図書館友の会と交流をする。詳細は後日に。

● **町田市立図書館のシステム更改について**／紙芝居を返却する際、返却口に紙芝居を本と同じように投入しても OK な館と NG な館とがあるのはなぜか？ さるびあ、金森、鶴川駅前のように人手も足りなくて忙しい館では職員が返却受の側に張り付いてはもらえず、紙芝居が引っかかってポストが詰まってもすぐに処理ができないので NG にしている。対してポストの処理がスムーズに行えている館が OK とのこと。職員の立場からも「知恵の樹」に書いて欲しいという意見があり、依頼する。

● **図書館資料費の増額に向けた取り組みについて**(会報 No.195.p.3 図参照)／図書費削減により選定でも資料収集に影響が出ている／新着棚の本が少なく

なった。多摩の中でも資料費の少なさが目立つようになった／リクエストサービスの対応に支障も出ていることから、利用者向けにポスターを掲示した／決算委員会側からは、予算が抑えられているのはどこも同じであり、図書館の予算を増やすよりはどこかスポンサーを探したらどうか、との意見も出ている／会として、市議さんたちにも働きかけをする努力をしよう。

● **図書館ホームページの点検について**／都立図書館協力貸出に関する町田市立図書館長名の「お知らせ」が消えた⇒復活を望む／図書館協議会の過去の提言書類の HP 公開を希望／和光大学との協力関係(地域の公立図書館と大学図書館の協力)についての記事の再 UP を希望(和光大学 HP には有)。

● **南町田再開発に関わる公開研究会「Lab・未来創造・in 南町田」について**／8/22 より 5 回に亘って行われた。図書館にも関わりがあるのではとの考えから、すすめる会から清水さんが自主参加している。図書館の計画はなしとのことだが参加者からは図書館が欲しいとの声あり。

● **その他**

▶市職労より…新システムについて、現場の職員の声をもっと聞きたい、聞くべき、との声あり

▶囑託労団体交渉(10/15)

▶かえで文庫…11/28(土)「晩秋の夜語り」成瀬中央集会所 18:00～20:00

▶まちだ語り手の会…11/19・20「東北3県から、伝承の語り手を招いて」おはなし会⇒満席御礼!

▶すすめる会 ML から…国際工芸館の設立に伴い、博物館所蔵の陶器やガラス器が移され、残った郷土資料などは今週旧武蔵岡中学校の空き校舎に引越すそうです(現在の置き場所を桜美林大学に貸与するため)。博物館の常設展が見当たらないので聞くと、所蔵しているかなりな量の郷土資料は、もう何年も展示をしたことがないとのこと。このまま武蔵岡に持っていき、オリンピックまでに国際工芸館を作り、郷土資料はそのあとということらしいのですが、博物館、このままでよいのでしょうか?

● **すすめる会定例会:毎月第4火曜日 18:00～**

**あとがき** 幼いころより、語り継がれてきた昔話を身体で聴いて育ち、伝承の語り手としてご活躍の3人(山形・岩手・秋田)をお招きして、贅沢なおはなし会を持った。淡々とした語り口からは、昔話を聴いた時のすべての思い出一語ってくれた人の声や温もり・まなざし・自然一が昔話を彩り伝わってきて、説教ではなく人間はどう生きればよいのかを、主人公を通して教えてくれる。我々書承の語り手が、お話を語ることで、いつかは子どもたちが語る側になることを夢見ているが、子ども達がお話を聞く場は今、余りにも少ない。(M+)